

宮川京大教授が講演

技術セミナー 建造物のシナリオデザイン

(福井県コンクリート診断士会)

福井県コンクリート診断士会

(石川裕夏会長)

毎年恒例のオープンセミナー

は12日、福井市手寄



宮川 豊章氏

のアオッサで開催され、会員とともに一般市民も合わせて計約90人が参加し、橋梁などコンクリート建造物の生涯にわたる適切で豊かなシナリオを計り、造り、使い、調べ、直し、使いこなす社会的な使命をもつ技術者として市民にえがき提案する重要性を学んだ。

講師は京都大学大学院工学研究科教授でプレストレストコンクリート工

学会会長など数多くの要職を歴任する宮川豊章氏が務め、今講演では「コンクリート建造物のシナリオデザインとは」をテーマに話しかけた。

氏は橋梁全体の変形(たわみ)イメージやコア抜き供試体の長さ変化測定、さらには維持管理の手順(点検、劣化機構の推定と劣化予測、性能評価、対策の要否判定)などを多数の現場写真や概念図で示し、

従来の技術評価は建造物を「造りこなす」点を高く評価しがちだが、今後はこちらと「使いこなす」点を重視すべきなどと指摘。また

専門技術者は土木施設の素晴らしさについて、市民生活を安全で豊かにするシナリオ(必要な期間、性能や機能、生涯設計)を示しながら分かりやすく説明する必要性を説いた。講演に先立ち、石川会長はコンクリート建造物の維持管理には技術者のみならず一般市民の理解も不可欠として今講演の意義を強調した。



毎年恒例のオープンセミナー＝アオッサで